

EASTICA (国際文書館評議会東アジア地域支部) セミナー参加報告

和歌山県立文書館 藤 隆宏

2002年12月1日から6日まで、中国特別行政区マカオにてEASTICA (国際文書館評議会東アジア地域支部) セミナーが開催された。全史料協からの代表としては、機関会員の内部構成員である私1人が、所属組織の直接業務でないため職務免除をいただいて、参加した。

今回のセミナーの参加者は60名を数えた。中国が20名と最も多く、韓国12名、モンゴル5名、香港3名、マカオ2名となっており、恐らくこの時点では会員に入っていないであろうパレスチナからの参加も1名あった。カテゴリーAメンバーの中では、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)だけが不参加であった。その他、講師としてICA事務局長Joan van ALBADA

氏と、ICA法制委員会(CLM)のメンバー11名も参加した。日本からは、国立公文書館(カテゴリーA)から通訳1名を含め4名、ユタ系図協会東京支部図書館(カテゴリーC)から1名、全史料協(カテゴリーB)から私1人、計6名の参加であった。

セミナーのテーマは「地域のアーカイブズの直面する法的問題と課題」で、ALBADA氏とCLMメンバーを発表者としてレコードやアーカイブズをめぐる法的な重要課題について議論し、またEASTICA加盟各国の状況報告を行うものであった。マカオ文化センターを会場に開催されたセミナーの日程は下記のとおりであった。

EASTICAセミナー日程

12月1日(日)		理事・CLMメンバーマカオ入り
12月2日(月)	9.30～12.00	理事会 CLM会
	12.00～14.00	昼食
	14.00～17.00	理事会(続き) CLM会(続き)
	18.00～20.00	他の参加者マカオ入り 夕食
12月3日(火)	9.30～10.00	開会式 歓迎スピーチ マカオ特別行政区政府文化協会長 Heidi HO氏 マカオ特別行政区政府歴史档案館長 Maria Fatima LAU氏
		開会挨拶 EASTICA会長・韓国政府記録保存所長 LEE jae Choong氏
	10.00～10.15	写真撮影
	10.15～10.30	休憩
	10.30～12.00	セミナー・セッション1: 基調講演 Joan van ALBADA氏 「アーカイブズの課題: 回顧と展望」
		CLM会

	12.00～14.00	昼食
	14.00～17.00	セミナー・セッション2：各国報告および議論 CLM会(続き)
	18.00～20.00	夕食 (マカオ特別行政区政府文化協会主催)
12月4日(水)	9.30～12.00	セミナー・セッション3：アーカイブズの法的問題 「電子的環境下における真正性についての問題」 Josef ZWICKER氏 「新技術と著作権：アーカイブズへの衝撃」 Gary PETERSON氏 「中国における宗教アーカイブズの保存：問題と考察」 GUO Siping氏 「アーカイブズおよびレコード法制の原理」 Sarah CHOY氏
	12.00～14.00	昼食
	14.30～15.00	臨時総会
	15.00～15.30	閉会式
	18.00～20.00	夕食 (EASTICA主催)
12月5日(木)		マカオ市内見学
12月6日(金)		参加者帰国

各国報告では、パレスチナを含めた参加国全てから発表があった。「奪われた記録」を取り戻すための支援を訴えるパレスチナが特異な発表であったが、他はアーカイブズ関連法や制度の整備状況と今後の課題（戦略）についての報告であった。公的記録管理全般を包括する「記録管理法」的な法制は、中国・韓国・モンゴルでは既に整備されているようである。日本は国立公文書館が、同館における歴史的公文書の公開（制限）基準などをとりあげ、アーカイブズの公開と個人情報等の保護の議論について報告した。

なお、紙幅の都合と、私の稚拙な和訳による誤解を回避したため、セミナー内容の詳細については割愛したい。諸発表・報告に関する資料については、総務委員会事務局へお問い合わせいただきたい。

閉会前の臨時総会においては、会員資格について、東アジア地区以外の地域に属する者にも入会を認めるべくEASTICA憲章を改正す

る議題と、セミナー主催のマカオ特別行政区政府文化協会と歴史档案馆に深い謝意を表明する議題が提出された。総会はカテゴリーAとBの会員のみが投票権を持つ（Aが2票、Bが1票）。私は両議題共に賛成し、結果満場一致で決議された。

最後に、セミナー中、大濱徹也理事をはじめとする国立公文書館の方々、(株)サイマルインターナショナル倉地礼子氏、ユタ系図協会東京支部図書館杉本圭司氏の皆様には、通訳等、多大な援助をいただいた。彼等の助けがなければ、私は議論の内容を全く理解できなかっただろう。ここに記してお礼を申し述べます。

(注記) 会員カテゴリー

カテゴリーA：国立公文書館

カテゴリーB：アーキビスト専門家協会

カテゴリーC：機関会員

カテゴリーD：個人会員

カテゴリーE：名誉会員